

伊方町議会第73回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	1 三崎高校の寮の食事について	町 長
質問の要旨		
三崎高校の存続は町としても重点政策と位置づけ、町内唯一の県立高校としてさまざまな支援をしているところであります。その甲斐もあり、もちろん関係各位の努力もあって、全国から選ばれる高校となりたくさんの生徒が通っていただく学校になりました。最近では町内のイベントにもひっぱりだこで、地域との距離も近くなり、伊方町にとってさらになくてはならない存在となってきたと思います。 現在、同窓会が運営する旧山本旅館以外の寄宿舍の朝食、夕食は入札で落札した業者さんが提供していると認識しております。 そこで2点についてお尋ねいたします。 ① どういうものが、どのような状態で提供されているか検食やチェックをされていると思いますが、どのように把握し対応をしているかお尋ねいたします。 ② わたしが調べたところ、県立高校の県営寄宿舍でしたら野村高校の緑ヶ丘寮が定員は10名と少ないのですが、食事担当職員として2名（県雇用1人、地元雇用1人）している状況があります。速水寮は県の寄宿舍ですし定員も多いので食事担当職員を県の支援で雇用し、町でも雇用する。伊方町の学校給食は町の管理栄養士が献立を作っていると思いますから連携して献立も作る。栄養管理もされた食事が提供されるならば、生徒や保護者の満足や安心感にもつながり、三崎高校へ来ていただく際のひとつの売りにもなると思うのですが、とりくむお考えがないかお尋ねいたします。		

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	2 魅力的で全国から選ばれる小中学校づくりについて	教育長 町 長
質問の要旨		
先般、伊方町学校再編検討委員会検討事項報告が公表されました。それによると、令和8年度を目途に九町小学校は伊方小学校へ、令和9年度を目途に三机小学校、大久小学校は両校あわせて三崎小学校へ、また令和10年度には瀬戸中学校を三崎中学校と統合することが望ましいとの検討事項報告がなされました。 少子化の流れはすさまじく、全国どこも同じような状況であるとは思いますが、検討事項報告通りになった場合、瀬戸地区から小学校、中学校が失われてしまいます。学校がなくなった場合の地域の活力の低下は私も母校である二名津小学校、二名津中学校が閉校となり身に染みて感じております。 しかし、そのような状況を踏まえてか、伊方町では本年度、人口減少対策として移住者を増やすため「保育園留学事業」を行うこととなっています。簡単に事業内容を説明しますと、都市部在住の子育て世帯に1～3週間滞在してもらい、一時預かり事業を利用しながら子どもは保育所に預け、保護者はワーケーションや地元住民と交流しながら田舎暮らしを体験してもらうことで伊方町の良さを全国に認知・拡散し、関係人口を創出するとともに、移住を検討する際のきっかけにしてもらい将来的な人口減少対策につなげていくというものです。 このような機会をきっかけにして、保育所を入口として三崎高校まで通っていただける状況をつくれなにかと考えております。 そのために、瀬戸地区において空いた校舎を活用しつつ、三崎高校で得た学校魅力化のノウハウも生かしながら、体験学習により基礎学習能力も向上する、伊方町全体をフィールドとし、地域の課題を抽出し、課題解決に取り組むことで生きる力を育む、自分の頭で考え行動できる「独立自尊」の精神をそなえた人材育成を新しい公教育の学校としておこなうべきと考えます。 伊方ならではの教育の魅力により、全国から選ばれる学校づくり、全国から選ばれる地域づくりに取り組むことで、少子高齢化、人口減少の激しいわが町の将来をになってくれる人材育成、また人口増加につながると 생각합니다。 保育所、小学校、中学校、高校と伊方モデルというべき背骨の一本通った一貫校的な魅力的な教育体制ができれば長い間、伊方町に家族で滞在していただけたと考えます。そうなれば、家を建てようかとか、改築しようかという話にもなり既存の政策、定住促進奨励金の利用や新規事業チャレンジ支援にもつながって地域の産業育成や地域の活力をうむことに貢献していくと思います。 このような取り組みをするお考えがないか、お尋ねいたします。		